



BベテルH通信

2024年7月号（第252号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 TEL089-925-5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>

ベテル病院での研修を終えて



5月27日～6月23日まで緩和ケア病棟で研修されていた永井翼先生に記事を寄せていただきました。

5月27日より4週間、ここベテル病院で研修させていただきました、愛媛県立中央病院研修医の永井翼と申します。普段はいわゆる急性期病院で勤務しております。

急性期病院での研修でも終末期を迎える患者さまと接する機会がありました。しかし、患者さまがベテル病院をはじめとした病院に転院した後、その先のケアやサポートに触れる機会は限られていました。今回の研修で、その貴重な経験を積むことができたことに感謝しています。

ホスピス病棟では、終末期の患者さまに対するケアの重要性を改めて実感しました。特に薬物療法を通じた疼痛管理、呼吸困難感の緩和、全身倦怠感のケアなど、身体的な苦痛を和らげるための具体的な方法を学びました。また、コミュニケーションを通じて、スピリチュアルペインに対するケアも重要であることを理解しました。患者さまの心の支えとなる言葉や態度の大切さを感じました。

また、訪問診療では、緩和ケアを目的とした在宅医療に触れる機会がありました。患者さまが自宅でどのように過ごし、どのように生きるかを直接見させていただくことで、在宅での終末期ケアの現実を深く理解しました。自宅での生活が患者さまにとってどれほど重要であり、その中で医療者が果たすべき役割がどれだけ大きいかを学びました。

ベテル病院のスタッフの皆さまには、大変お世話になりました。病院内の職種を超えた連携の素晴らしさにはただただ感銘を受けました。各職種が互いに尊重し合いながら、一人ひとりの患者さまに最適なケアを提供する姿勢は、私にとって大いに勉強になりました。ありがとうございました。

最後に、訪問診療で出会った書家である人生の先輩からの言葉を紹介したいと思います。「反省したら一步でいいから進め。」この言葉を胸に、ベテル病院で学んだことを活かしながら、若輩者なりに一步ずつ前進し、社会に貢献していきたいと思います。4週間、ありがとうございました。

（県立中央病院 研修医 永井 翼）



リハビリの時代

次田医師の診察は
毎週月曜日に行われ
ています

研修医の頃、リハビリセラピストさん（理学療法士、作業療法士）にご指導いただきました。親子ぐらいの年の差のあるリハビリセラピストさんは博学で患者さまへのお声掛けや関節の触り方など神がかったものを感じました。

開業医に就職したころ、リハビリセラピストさんは不在、片田舎の整形外科はブロック注射と物療（牽引、ホットパック、干渉波、超短波）がメインで、リハビリ担当の看護師さんは大人気で沢山の患者さまでにぎわっていました。



救急病院に縁あって就職したときに回復期リハビリテーションがスタートし、人工膝関節術後、骨接合術術後などリハビリ患者さまを診る機会に恵まれました。

のちに道後温泉病院に就職して人工関節や骨折手術の研修を受講し、リハビリセラピストさんと沢山かかわるようになりました。病状の進んだ患者さまは痛みが強く要望も多いです。合併症の多い患者さまほど、リハビリセラピストさんにお世話になることが多かったし、経験の豊富なリハビリセラピストさんにはずいぶん助けられました。

ここ数年リハビリセラピストの戦力が病院の成績に直結していると言っても過言ではない時代になっています。手術や急患は救急病院が競って対応するようになり、高機能病院は急性期に特化、後方支援病院にはどんどん押し出された患者さまが溢れています。後方支援病院（療養型病床群、回復期リハビリ、地域包括ケア病床）の維持運営にはリハビリが欠かせない状況。急性期から後方支援病院に転院される患者さまは、ご高齢であったり、侵襲の大きい手術を受けたり、内科疾病を合併している患者さまが多いです。ベテル病院には近年診たことのないような、多種多様で、一筋縄では対応困難な整形外科領域の患者さまに出会います。先輩方（担当医、リハビリセラピストさん）のお役に立つには相当気合が必要です。紹介していただく患者さまによく声をかけて、しっかり身体所見を取ることから始めようと思います。担当しているリハビリセラピストさんは毎日患者さまと接しているのだから。

（整形外科/リハビリテーション科医師 次田 靖功）

リハビリで行う家屋調査ってどんな事?②



退院後の生活で患者さま、ご家族にとって重要になってくる場所の一つであるトイレについてお話します。

【トイレの調査するポイント】

① 段差

つまずきに配慮してトイレ出入口と廊下との段差を確認し、患者さまの身体能力に合わせて段差を解消したり、トイレ出入口に手すりの設置を検討します。

② トイレ入口から便座までの移動動作

歩行が不安定な場合は入口から便座までの動線に手すりの設置を検討します。

③ トイレ内で介助を要する場合

介助が必要な場合は便器側方や前方に幅 50 cm 以上の介助者のスペースが必要になります。困難と判断した場合はポータブルトイレの検討、選定を行います。



ポータブルトイレ

④ 手すりとの関係

洋式トイレの標準的な便座の高さは約 40 cm です。この高さからの立ち上がりが難しい場合は L 型手すりや縦手すりの設置を検討します。

また、補高便座等の福祉用具で便座を高くするといった方法もあります。



補高便座

・ 縦手すり

立った時の姿勢の保持や、便座に座る時の方向転換をする時に使用します。また、便座からの立ち上がりの際に縦手すりを使って重心を前に移動する事で立ち上がりやすくなります。取り付けの高さは手すりの一番上の部分が肩の高さより 10 cm 程度上を目安とします。



縦手すり

・ 横手すり

歩行する時に手を滑らせながら使用したり、トイレ内では便座に座った姿勢を保持するのに使用します。



横手すり

・ L 型手すり

トイレ内では縦手すりと横手すりの両方の機能を持ち合わせています。座った姿勢が安定していれば、L 型手すりではなく縦手すりだけでも大丈夫です。

*尚、車椅子使用の場合は、横手すりの高さを車椅子の肘置きの高さに揃えます。



L 型手すり

このような所を確認して自宅での生活が安全に行えるように支援しています。

参考文献 東京商工会議所 福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト
住宅改修アセスメントのすべて「改訂版」

(作業療法士 八木 泉)

外来診療日のお知らせ

◎ 豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

7月10日（水）、7月24日（水）

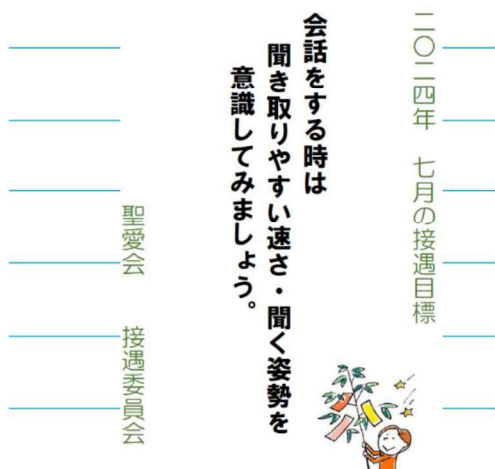
◎ 7月の休診（6月24日現在）

7月26日（金）大西 哲史 医師（内科）



松山ベテル病院では、接遇目標・医療安全推進目標を掲げています

7月 接遇目標



接遇委員会

7・8月 医療安全推進目標



医療安全委員会

掲示物紹介



3階東病棟患者さまの作品



ベテル句会
校庭に
チャイム流れて
蝶の昼
(河田 和子)



- ・ 投句箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
- ・ 『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・ 掲載中の写真についてはご本人、ご家族の許可を得ています。

発行日 2024年6月24日